

ごみ処理施設建設検討委員会について

新施設の基本設計の策定に、広く関係者などの意見を取り入れるため、令和2年8月に学識経験者(技術顧問)や自然環境等に関する有識者、住民の代表、ごみ排出者の代表など18人で組織する検討委員会を設置しました。

委員会では、新施設の基本設計における重要事項として施設規模や焼却方式、排ガス規制値などについて、来年度ごろを目途に検討します。

なお、会議の内容はどなたでも傍聴することができます。市ホームページでも議事録などを公開しています。

より良い施設となるように検討をすすめています

<重要事項>

①施設規模

将来のごみ発生量を予測して、1日当たりの処理能力を算定します。

②焼却方式

本市の可燃ごみおよび焼却灰の処理方法に合う方式を選定します。

③排ガス自主規制など

国内トップクラスの環境対策となるよう法定基準値より厳しい排出基準値を設定します。

④煙突位置および高さ

周辺環境への影響に配慮し、煙突の位置や高さを設定します。

<その他>

○エネルギー

熱エネルギーによる発電を行うなど有効な熱利用方法を選定します。

○防災機能

停電しても焼却炉を止めず発電を行うことで、災害時でも活用できる施設とします。

○環境学習

環境に関する情報を発信し、環境学習の拠点となる施設とします。

○施設運営

施設配置や動線を工夫して、事故や渋滞がなく、安全で使いやすい施設にします。

○建物のデザインや色

景観に配慮したデザインや色彩を採用するなど、周辺環境との調和を図ります。



第1回ごみ処理施設建設検討委員会
○検討委員会のホームページ(市HP)
広報ID 1012846

ごみの減量化への取り組みについて
食品ロス調査およびプラスチック調査

下の写真は、令和2年6月に市内のご家庭から排出された可燃ごみを調査した結果、その中に含まれていた食品ロスです。

数力所の
ごみステーションに出された可燃ごみ

150袋(約750キログラム)を手作業で分別し、食品ロスやプラスチック廃棄物がどのくらい含まれているか調査しました。

可燃ごみ約750キログラムのうち約103キログラム(約14%)が食品ロスでした。

まだ食べられる野菜や手付かずの豆腐、お弁当などが多



食品ロス

食べ残し、売れ残りや期限切れなどで食べられるのに捨てられる食品

高山市の環境を守り、持続可能な循環型社会の実現を目指すために、今後も引き続き、ごみの減量化や分別の徹底に加え、食品ロスおよびレジ袋などのプラスチックごみの削減にご理解とご協力をお願いします。

問合せ ごみ処理場建設推進室 ☎ 57-5177